



消防学校 ニュース



令和5年7月号

初任科 校長通常点検

— ついに来た！緊張の一瞬 —



グラウンドに全員整列



通常点検開始



校長による厳しい点検



緊張する初任科学



校長からの訓示

初任科学生が入校して3か月が経過し、この間、毎朝欠かさず教官による通常点検を実施してきました。

通常点検とは、消防活動に際し有効適切な措置をとるよう、人員、姿勢、服装、手帳等の点検をし、その不備の点は整備又は反復訓練して是正するものです。

6月27日(火)、ついに校長による通常点検が実施されました。校長点検は学校に慣れてきた初任科学生にとって大いに気が引き締まる場面です。

初任教育本格化

～基本なくして応用なし～



強制ドア開放訓練



応急はしご救助訓練



破壊器具取扱訓練（チェーンソー）



破壊器具取扱訓練（エンジンカッター）



ロープ渡過訓練（地上線）



ロープ渡過訓練（訓練塔）



懸垂降下訓練



模擬家屋の燃焼



高所屋内進入訓練



かかえ救助訓練



救急訓練

入校して約3か月、座学・実科訓練及び寮生活を通じて、徹底的に必要な基礎教育が行われてきました。

これから本格的な夏を迎え、気温も更に高くなり、厳しい環境下での教育訓練になります。

今後も、学生は「あたりまえ力」はもちろんのこと、自らが「気づき・考え・行動」できるように、教官の厳しい指導を受け訓練に臨みます。

女性消防団員研修会(第6回)

7月9日(日)に女性消防団員研修会を開催し、県内の女性消防団員48人が入校しました。危険予知トレーニングをはじめ、火災の性状に関する講義や放水体験を行いました。

グループワークや実科訓練を中心に、入校生の皆様は活発に意見交換をしながら団員同士の繋がりを大切に、消防団員としての使命や熱意を持って研修会に臨まれていました。



危険予知トレーニング



放水体験

静岡県消防救助技術大会

6月6日（火）、第51回静岡県消防救助技術大会（静岡県消防長会主催）が本校で開催されました。県内16消防本部（局）から救助隊員の精鋭が集まり、日頃の訓練成果を競い合いました。



引揚救助



ロープブリッジ渡過



ロープブリッジ救出



はしご登はん



ロープ応用登はん



ほふく救出



障害突破

初任科学生の任務



競技掲示板管理



審査表・タイム表回収



プラカード保持



初任科学生の学生演技（体力向上体操）



（担当教官から）

初任科学生には、救助大会運営補助のため、プラカード保持、掲示板及び審査表回収の任務が割り当てられ、大会の裏方として活動しました。各種目に全力で競い合う先輩職員の姿を間近でみられ、多くの刺激を受けたことと思います。また、体力向上体操では、縦横の整列状況を常に意識させ、気持ちの入った声を出し、115名が心をひとつにして観る人々を感動させることを目標に指導してきました。

当日の演技では、日頃の訓練成果を十分に発揮し、学生たちの成長を感じました。

教務課主査 水野 清人（磐田市消防本部から派遣）

危険物取扱者試験

～合格率100%をめざして～

初任科第94期

「危険物取扱者試験」は、消防法に基づく危険物（火災の危険性が高い物質をまとめて指定）の取扱いや、その取扱いに立ち会うために必要となる国家資格です。資格取得のための試験は、現在、全都道府県の指定試験機関（総務大臣が指定）である一般財団法人消防試験研究センターが行っています。

消防試験研究センター静岡県支部の協力により、6月22日（木）、本校において初任科生を対象とした危険物取扱者試験が実施されました。

（担当教官のコメント）

本年度の危険物取扱者試験では、乙種第4類又は他の類を受験しました。多くの学生にとっては初めての国家試験となりますが、「**初任科第94期全員合格!!!**」を目標に掲げ、入校直後から学習を始めました。

試験に係る学習では、『火災のメカニズム』や『消火理論』を十分に学ぶことができるとともに、広範多岐にわたり利用されている『危険物』に対する知識も習得することができます。学生には、「危険物取扱者試験」に関する知識を習得することは、日々、災害対応する消防職員にとって必要不可欠であることなど、本資格試験にチャレンジする目的や重要性を十分に説明した上で、第94期一丸となって試験対策に取り組みました。

結果的に合格率は80.6%ということで、ここ数年の合格率と比較すると低い水準になってしまいましたが、無事試験を終えることができました。

残念ながら今回は不合格であった学生も、今回の試験を通じて、資格取得の難しさや、教育訓練中における時間の有効活用など、多くの事を学んだと思います。今後も、様々な資格試験に積極的に臨んでほしいと思います。

教務課主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

初任科第94期試験結果

実施日 令和5年6月22日（木）
合格発表 令和5年7月11日（火）

	受験者	合格者	合格率
乙種第4類	96人	75人	78.1%
乙種第2・6類	12人	12人	100%
全体	108人	87人	80.6%

本試験満点合格の学生



（左）静岡 杉山学生 （中）静岡 磯部学生 （右）静岡 片岡学生

【過去の合格率】

区分	平成27年度		28年度		29年度		30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	83期	84期	85期	86期	87期	88期	89期	90期	91期	92期	93期	94期
乙4のみ	42.1%	58.3%	72.8%	71.0%	91.6%	94.6%	90.0%	87.0%	97.4%	95.3%	98.8%	78.1%
乙4+各種	45.7%	62.5%	74.7%	75.7%	90.7%	94.9%	91.0%	88.8%	97.7%	95.8%	98.9%	80.6%

新任教官紹介

～大いなる成長を期待しています！～

今年度、消防学校に新たに加わった5人の教官を紹介します。5人は4月からの慌ただしい中、先輩教官の指導の下、試行錯誤しながら、初任科学生からの影響も受け、業務に取り組んでいます。優秀な教官を派遣していただいている消防本部（局）には、心より感謝申し上げます。



教官に着任し3か月が経過しました。日々、慣れない指導に試行錯誤しています。

初任教育で習得する消防業務の基礎知識、基本技術が、消防人としての土台を築くことは言うまでもありません。校訓にあるように「規律の厳守」「技術の錬磨」「体力気力の錬成」の目的を達成できるように、常に丁寧な説明を心がけ、愛情と厳しさを持って指導していきたいと思います。派遣期間中、学生に基礎、基本をしっかりと教育し、災害現場で活躍することができる消防人を育成することで、県内消防行政の発展に微力ながら貢献できたらと思います。

教務課主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

「教えるとはともに希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むこと」これは恩師から贈られた言葉です。教官となってから、日々この言葉を反芻しています。学生にとっては長い半年かもしれませんが、教官にとってはたったの半年、教えられることは限られます。将来の消防を担う彼らには、「仕事に対する誠実さ」と、「学び続ける継続力」だけは身につけてほしいと思っています。そのためにどうやって教えていくか、これを意識して残りの3か月も全力でサポートしていきます。そして学生を指導しながら、自分自身もともに学んでいけたらと思います。

教務課主査 鈴木 敏弘（富士市消防本部から派遣）



まずは、教官という立場でここに立てている全ての状況に心から感謝です。憧れの消防士となり、自分自身もこの消防学校で、教官の熱い指導の中、仲間と苦しい訓練を乗り越えそれが今へと繋がっています。当時の教官の姿、言葉は今も鮮明に記憶にあります。初任科学生にとって教官は強烈に大きな影響を与える存在なのだと思います。いつかは自分も教官として教育の立場で学生と、向き合ってみたいと考えていました。知識や技術は必須ですが、消防の魅力や責任、消防人として大切な「心」を伝えたいです。学生と共に自分自身も成長させてもらっている心境です。訓練に終わりなし、当たり前のことをばかにしないでちゃんとやることのできるプロの消防人育成に尽力し、それぞれの場所に胸を張って戻っていく姿にします、必ず。

教務課主査 山下 大輔（駿東伊豆消防本部から派遣）



初任科学生の成長する姿や先輩教官、他教官の指導技法を間近で見て学び実践すること3か月が経過しました。指導において判断に困った際は、常に「自分らしく」を念頭に考え行動してきました。学生には、カリキュラムの内容全てに意味があることを伝え、どういう目的で実施しているのかを常に説明するよう心がけています。また、失敗を前向きに捉え、考え学びを得る重要性を伝えています。今後は、自分たちで考え判断し、行動できる消防人を育成するために、私自身も精進し続け、学生の成長をサポートしていきたいと思います。

教務課主査 水野 清人（磐田市消防本部から派遣）

この4月から念願の消防学校教官に着任し、毎日、初任科学生とともに汗を流し、緊張感をもって指導を行っています。

近年、自然災害の激甚化や頻発化、新型コロナウイルス感染症対策など消防を取り巻く環境が多様化する一方で、定年引上げに伴う消防力の維持や消防本部の広域化など様々な課題を抱えており、こうした状況に的確に対応するための職員育成は以前にも増して非常に重要なものとなっています。

真っ正面から学生と向き合い、情熱を持って指導することで、県民の信頼と期待に応える「消防人」を育成し、静岡県の防災力強化に寄与したいと思います。

教務課主査 高村 勇一郎（県職員）



三沢校長から一言

静岡県消防学校は新幹線から見える唯一の消防学校と言われています。ここにいると、新幹線の運行本数の多さに改めて驚かされます。静岡県の駅にはあまり止まらないのはちょっとがっかり。また、ドクターイエローもまだ一回しか“目撃”していないのも残念です。

さて、東海道新幹線の車内チャイムが20年ぶりにUAの「会いにいこう」に変更になりました。この曲が流れるCMでは、車窓から見える定番・富士山や都会の街並みが映りますが、消防学校も映像に入れてくれないか交渉してみようかと思っています。

続いて初任科学生の様子です。

7月10日から14日は所属本部における実務研修でした。毎年、この研修の後は、先輩との体力差を痛感し、体力の向上に励むとともに、より実戦を意識した訓練を行うようになるそうです。

今日も猛暑の中、グラウンドに大きな声が響いています。8月3日、4日は第二回の野外訓練、初任科生たちの変化に期待しましょう。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索